学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区目白1丁目5番1号
電話03(3986)0221内線2607
http://www-ce.gakushuin.ac.jp/~press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　北岡恵子
年間500円

奨学金の採用状況

2年連続で100％

大学奨学金の採用率

「学習院大学奨学金」および「日本学生支援機構奨学金」について、平成七年度の申請者・採用者数が発表された。申請数は昨年度に比べ、それぞれ十九件、三一件減少した。しかし「学習院大学奨学金」の採用率が昨年度に引き続き一〇〇％であるなど、高い採用率を保っている。

平成十四年度より導入された「学習院大学奨学金」は、本学が独自で設置している奨学金制度の中で、最も申請者数が多い。今年度は四年連続で減少を続けている。その主な理由として、貸与型の奨学金である「学習院大学奨学金」は将来その学生の負債となってしまうため、安易な借りようとする人が減ったのではみられている。そしてここ数年で奨学金の見直しがなられ、その結果、昨年度より「学習院大学奨学費支援給付奨学金」ともに当てはまる。このような例外的貸与も認められているため、本学の奨学金採用率は例外的に高い。

では、期日までに納付金の振込みができないときはどうしたらよいのだろうか、そのような人たちの助けとなるのが「納付金延納願」だ。これはやむをえない事情があると認められた場合に限り、授業料などの納付金を納めることができない奨学金申請者は、この「納付金延納願」を納付期限の一週間前までに提出することで、奨学金決定後に納付金を納入することができる。奨学金申請者に限らず、すべての学生が知っておくべき制度である。

最後に注意してほしいことは、奨学金を借りることは、当然ながら貸与型の奨学金には、卒業・修了後に返還の義務が生じる。このため奨学金を借りるときは、返還のことも考えた上で申請することが求められる。

なお「学習院大学奨学金」、「日本学生支援機構奨学金」ともに、学生の申請者・採用者数、本学で利用可能な奨学金制度は毎年度の通り。

「学習院大学奨学金」および「日本学生支援機構奨学金」の申請・採用状況

平成17年6月21日現在

	平成16年度				平成17年度			
	大学奨学金		日本学生支援機構		大学奨学金		日本学生支援機構	
	申請数	採用数	申請数	採用数	申請数	採用数	申請数	採用数
法学部	42	42	96	71	39	39	97	70
経済学部	36	36	106	85	31	31	87	67
文学部	52	52	164	114	42	42	142	102
理学部	27	27	33	26	23	23	39	30
学部計	157	157	399	296	135	135	365	269
法学研究科	0	0	1	1	0	0	0	0
政治学研究科	0	0	0	0	0	0	3	3
経済学研究科	0	0	4	2	0	0	0	0
経営学研究科	0	0	0	0	0	0	1	1
人文科学研究科	1	1	41	29	3	3	54	36
自然科学研究科	4	4	21	15	6	6	11	9
大学院計	5	5	67	47	9	9	69	49
法科大学院	13	13	12	10	12	12	12	10
合計	175	175	478	353	156	156	446	328

本学で利用できる奨学金制度一覧

区分	公募制	推薦制
貸与型	・学習院大学奨学金 ・実吉奨学金 ・日本学生支援機構奨学金（第一種・第二種）	
給付型	・学習院大学学費支援給付奨学金 ・学習院大学海外留学奨学金 ・学習院大学教育ローン金利助成奨学金	・入試成績優秀者給付奨学金 ・学習院大学学業優秀者給付奨学金 ・安倍能成記念教育基金奨学金 ・学習院永松奨学基金奨学金 ・関育奨賞金

学習院 学問研究の「いま」 研究最前線

「イメージとテクストの戯れ」

文学部フランス文学科 野村正人教授

今回は文学部フランス文学科の野村正人教授です。十九世紀のフランス小説や挿絵、諷刺画、そして映画を専門となさっている先生、その幅広い研究についてお話を伺いました。

（取材・構成　長谷川さま）

◇　◇　◇

リアリズム小説において諷刺

先生は文学部に十九世紀のフランス・リアリズム小説、特にフロベール（ボヴァリー夫人）における、ブルジョワ的な人間の固定観念を嗤う作品を多く書いた人です。そこでリアルな物の言葉について博士論文を書いたんです。特に典型的なブルジョワのオジーという人物の滑稽さおかもしろくて、そこに魅力を感じていました」

グランヴィルへの興味

フロベール研究を一通り終えて、十九世紀の挿絵画について、大学の研究者や美術館の学芸員などと研究会を始めた。そして『カリカチュール』という諷刺新聞を読み解くことになった。そこで先生は、グランヴィルという挿絵画家に興味を持ったなった。

「一八四二年に、グランヴィルの『動物たちの私的公的生活情景』が発表されました。この作品は動物を擬人化して、当時の人間の社会風俗を風刺したものでした。ライオンは支配者を表すとか、狐だったら狡賢いとか、そういった度合は昔からありますよね。それを考えるという学問が現れました。そして、同時にラファーターの観相学、「こういう顔をしたら性格だ」という学問が流行していた。

「観相学では、神が人をつくるときに全て意味があり、目が吊りあがっていたら、鼻が低いのは神様がアルファベットを間違えて、頭のてっぺんに、一八三〇年代、写真や映画と共にイメージが氾濫してきたので、史的背景を研究しています」

映画とイメージ

十九世紀に生まれた、写真や映画といった視覚メディア、諷刺画、挿絵は十九世紀にはそれぞれ独立したジャンルとなった点でつながっているという、一八三〇年代に写真ができ、その後、幾像現象を使った映画のはしりのようなものが現れる、同時にラファーターの観相学と結びつきながら、昔からあった動物擬相学を再びいろいろ使われていたのか、主テクストと挿絵の関係を追及しています。そこで先生は、グランヴィルの『動物たちの私的公的生活情景』が発表されました。この作品は動物を擬人化して、当時の人間の社会風俗を風刺したものでした。ライオンは支配者を表すとか、狐だったら狡賢いとか、そういった度合は昔からありますよね。それを考えるという学問が現れました。そこで先生は、グランヴィルという挿絵画家に興味を持ったなった。

「一八四二年に、グランヴィルの『動物たちの私的公的生活情景』が発表されました。この作品は動物を擬人化して、当時の人間の社会風俗を風刺した作品を顔に書いたのだ、と考えられていました。そこから派生してアルファベットの骨格、頭のてっぺんに、一八三〇年代、写真ができ、その後、幾像現象を使った映画のはしりのようなものが現れる、同時にラファーターの観相学と結びつきながら、昔からあった動物擬相学を再びいろいろ使われていたのか、主テクストと挿絵の関係を追及しています。そこで先生は、グランヴィルという挿絵画家に興味を持ったなった。

「観相学では、神が人をつくるときに全て意味があり、目が吊りあがっていたら、鼻が低いのは神様がアルファベットを間違えて、頭のてっぺんに、一八三〇年代、写真や映画と共にイメージが氾濫してきたので、史的背景を研究しています」

このことから、イメージそのものの歴史を研究しています」

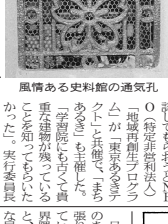
映画とイメージ

十九世紀に生まれた、写真や映画といった視覚メディア、諷刺画、挿絵は十九世紀にはそれぞれ独立したジャンルとなった点でつながっているという、一八三〇年代に写真ができ、その後、幾像現象を使った映画のはしりのようなものが現れる、同時にラファーターの観相学と結びつきながら、昔からあった動物擬相学を再びいろいろ使われていたのか、主テクストと挿絵の関係を追及しています。そこで先生は、グランヴィルという挿絵画家に興味を持ったなった。

「一八四二年に、グランヴィルの『動物たちの私的公的生活情景』が発表されました。この作品は動物を擬人化して、当時の人間の社会風俗を風刺した作品を顔に書いたのだ、と考えられていました。そこから派生してアルファベットの骨格、頭のてっぺんに、一八三〇年代、写真ができ、その後、幾像現象を使った映画のはしりのようなものが現れる、同時にラファーターの観相学と結びつきながら、昔からあった動物擬相学を再びいろいろ使われていたのか、主テクストと挿絵の関係を追及しています。そこで先生は、グランヴィルという挿絵画家に興味を持ったなった。

「観相学では、神が人をつくるときに全て意味があり、目が吊りあがっていたら、鼻が低いのは神様がアルファベットを間違えて、頭のてっぺんに、一八三〇年代、写真や映画と共にイメージが氾濫してきたので、史的背景を研究しています」

このことから、イメージそのものの歴史を研究しています」



グランヴィルの本とイラスト

視覚メディアの時代

障害をもつ学生に有償ボランティアも

今年度、本学には身体等に障害をもつ学生が八人（視覚障害、聴覚障害、肢体機能障害各二人）在籍している。同学生に対しては毎年四月にヒアリングを実施、支援要望書をもとに聞き取り調査を行う形だ。また、同学生が支援を確保することが困難な場合は、大学へ支援を申請することができる。その窓口は学生部だが、支援内容が授業に関するときは、学生部より教務部教務課・学生部より学科等へ、それぞれ支援を要請する。

施設・支援設備については、南二号館へ学生控室を確保し、パソコン・スキャナー等を配備。さらに電子百科事典などのCD-ROMを購入した。

次に聴覚障害をもつ学生については、ノートテイキングの協力を求めている。ノートテイカーとは、授業中に講義内容を書き取り、同時に「ノートテイキング講習会」を開催、さらに「手話サークルのぞみ」へのボランティア援助をお願いしている。

そして肢体機能障害をもつ学生については、自動車の入構許可・学内試験時間の延長・障害者用デスクの購入を行った。

施設関係では障害者用トイレの設置や建物出入口の段差解消など様々な処置が施されている。また、昨年度より人的支援のルールが定められ、有償ボランティア等への金銭的な支援も可能になった。

このような支援体制のもと、学生が支援申請することができる。その窓口は学生部だが、支援内容が授業に関するときは、学生部より教務部教務課・学生部より学科等へ、それぞれ支援を要請する。

施設・支援設備については、南二号館へ学生控室を確保し、パソコン・スキャナー等を配備。さらに電子百科事典などのCD-ROMを購入した。

次に聴覚障害をもつ学生については、ノートテイキングの協力を求めている。ノートテイカーとは、授業中に講義内容を書き取り、同時に「ノートテイキング講習会」を開催、さらに「手話サークルのぞみ」へのボランティア援助をお願いしている。

そして肢体機能障害をもつ学生については、自動車の入構許可・学内試験時間の延長・障害者用デスクの購入を行った。

施設関係では障害者用トイレの設置や建物出入口の段差解消など様々な処置が施されている。また、昨年度より人的支援のルールが定められ、有償ボランティア等への金銭的な支援も可能になった。

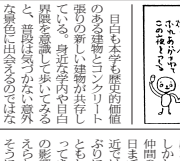
日本とドイツをつなぐ懸け橋

6月18日に本学ドイツ文学会、春季講演会が開かれた。今回招かれたのは、ドイツ語通訳者の桑折千恵子氏。テーマは「職業としてのドイツ語通訳」だった。フリーの通訳者として活躍する桑折氏が、日本大学薬学科（現薬学部）卒という経歴を持つ。ドイツに「遊学した」という話から通訳者としての苦労話まで、話題は多岐に渡った。その内容に、多くの聴衆が通訳者としての夢に思いをはせていた。（椿）

古きものの良さ 目白で再発見

五月二〇日から三週間、「第一回目白通りアート・プロジェクト」が開催された。古き良き街並みが残るなお目白台の景色が残っている。そんな目白を再確認してもらおうとNPO（特定非営利活動法人）「地域再創生プロジェクト」と共催で、「まち歩き」も主催した。

「学習院にも古くて貴重な建物が残っていることを知ってもらいたい」と、普段は気づかない意外な景色に出会えるのではないだろうか。



風情ある史料館の通気孔

このプロジェクトに本学の史料館と東別館（旧基礎研）も取り上げられた。市計画が進む一方で、今も残る街並みの景色が残っている。そんな目白を再確認してもらおうとNPO（特定非営利活動法人）「地域再創生プロジェクト」と共催で、「まち歩き」も主催した。

「学習院にも古くて貴重な建物が残っていることを知ってもらいたい」と、普段は気づかない意外な景色に出会えるのではないだろうか。

目白にも本学も歴史的価値のある建物とコンクリートの新しい建物が共存している。身近な所内を目白の影響を与え、何かを変えたいと思っている。

ただ我が国がかかる国際作業の全てがかける国際作業の全てがうまくいかないことに感じてしまう。大切な大学生活をただただ長い間していのではと低燃感で眠れなかったこともある▼悩み多い日々をあったが、喜びも沢山もらった。それは、レイアウトが自分好みに仕上がった時の高揚感など、小さなことだ。しかし、その積み重ねと仲間の存在に教われ、今日まややってこれた▼最近では特に、後輩の成長ぶりに感動してしまうこともしばしば。自分やってきたことが何がしかの影響を与え、何かを変えたいと思っている。

ただ我が国がかかる国際作業の全てがうまくいかないことに感じてしまう。大切な大学生活をただただ長い間していのではと低燃感で眠れなかったこともある▼悩み多い日々をあったが、喜びも沢山もらった。それは、レイアウトが自分好みに仕上がった時の高揚感など、小さなことだ。しかし、その積み重ねと仲間の存在に教われ、今日まややってこれた▼最近では特に、後輩の成長ぶりに感動してしまうこともしばしば。自分やってきたことが何がしかの影響を与え、何かを変えたいと思っている。

素朴な疑問

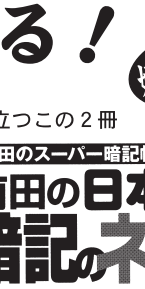
大学の隙間に暮らす

本文を書くに当たって、高々の鳴く声が響く、ここは林の中――と続きそうなのだが、お察しの通り、木も鳥もそして人もくく集まる本学の話である。

さて、自然あふれるキャンパスに住む多くの生徒物は一体どのような生活をしているのだろうか。前紹介した本学の狸は目白の森を生活圏としているようだが、今回は鳥を探ってみよう。可ほぼ鳥が豆ツ鳥から、翼を持つ彼らは、もちろん広範囲を飛び回る。だが、学内に人が多い日中は理学部棟の辺りに出没するようだ。悪さをしないように願う。

おスはどこからやって来るとも知れない。家を訪ね。やはり自白の巷に近い中央教室付近によく目撃される。そこで、昼睡の吹く頃をさるとと回ってみると、すぐ後、別の一羽が中央教室の窓枠下から出てきた。一瞬目を疑うものの、狭小な隙間が本当に住まいであるようだ。

大学は、もちろん人々の学問、交流あるいは住まい事の場としと機能している。かし一方で、このキャンパスは別の生き物の暮らす所でもある。実は通う人々よりも、この地に暮らす生き物の方が主なのかもしれない。（昼）



情報特急便

救急救命講習会
日時：7月19日（火）9時～13時
場所：保健室
テキスト代：1400円（当日）
備考：動きやすい格好が望ましい

日本歴史学協会総会　記念講演会のお知らせ
日時：7月23日（土）13時～
場所：北1号館400人教室
講師：小倉芳彦（本学名誉教授）「学習院と朝鮮研究」
附文・進平の朝鮮語学」
笹山晴生（東京大学名誉教授）「平安時代の王権」

オープンキャンパス
日時：7月23日（土）8、27日（土）10～16時
場所：学習院大学構内、西5号館

就職のためのマスコミ文章論講座
第1回　文章論入門①
日時：7月26日（火）10月平～18時
講師：今度勝彦（元共同通信社記者審査委員長）
場所：学習院女子大学講師
受講料：学2000円（会8円）
申込先：学習院生涯学習センター（電話で申込可）
定員：15名程度の少人数制
第2回　文章論入門②
日時：7月29日（金）

次号（第一九九号）は九月下旬発行予定です。
学習院大学新聞社

明怒浄抗

今年も、退職間近の新聞である。入学してからの生活の中心は新聞社であった。

たと言っても過言ではない。その間、自問自答を繰り返す日々であった▼新聞づくりの経験に絶対のしかたは、はっきり言ってしまうは、全て好き嫌いの問題だ。そうと割り切って自分なりのベストを尽くしても、厳しいBの問で意識の連いに悩むことは一度や二度ではなかった▼そもそも、今自分がやっていることに果たして意味があるのか。そう思い始めると、沢山の時間と労力を費やしてきたのだ。

今年は、自分自身を試す年になるだろう。

（結）

芳林堂書店

BOOKS HORINDO

2・3 いざ鎌倉へ

長い歴史を感じさせる街、鎌倉。日帰りでけける手軽さも大きな魅力だ。そんな街で今年の夏を満喫してみよう。

紙面紹介

4 卓球部男子1位

卓球部男子のリーグ戦が開催された。全勝対決となった立正大戦。本学は同大にストレート勝ちし、見事に優勝を飾った。

芸術のある風景

六月末日・鳩山会館

大正十三年、表構の鳩山元首相の私邸。この時期、庭には薔薇が咲き乱れる。晴れた日には鳩を手チャーしたステンドグラスを太陽が照らす。（椿）

悠久の古都 鎌倉

観光都市として有名な鎌倉。最近は大河ドラマ『義経』の影響を受け、再注目されている。義経自身が滞在した時間は僅かだが、鎌倉は源氏の始まり、そして終焉の地でもあるのだ。

そんな鎌倉をモデルコースと共に紹介する。東京から一時間足らずの古の地。その魅力を味わってほしい。

あの頃 私も若かった ⑦

文学部哲学科 小林　忠教授

先入観を捨てて 中身を大切に

今回は哲学科の小林忠教授からお話をしていただきました。どのような失敗談なのでしょうか。

まちがった鑑定

29歳の頃

私が若い頃、東京国立博物館に勤めていた時の話です。国立博物館への信頼感からか、美術品の鑑定を依頼する一般の方が多くいました。

ある日、地方の名士の方が鑑定を依頼するために、奥さんを連れて来られました。その方が来られるのはもう三回目で、今まで持って来た絵画はほとんどすべてが偽物でした。私は今回もすぐに「これもだめですね」と答えてしまいました。その時、それまで一言も言わなかった奥さんが初めて「これもですか」と問い返されました。遠くから持って来る度、偽物だと言われるご主人が気の毒だと思ったのでしょう。

そして数年後、大阪の有名な収集家のお宅に行きました。そこで私が目にした絵は、以前自分が偽物と鑑定した物でした。改めて見ると、それは間違いなく本物だったのです。奥さんの「これもですか」という一言を思い出して心が痛みました。

あの時、未熟な私は二つの過ちを犯してしまったのです。一つは良いか、悪いかという判断のみをすぐ口にしてしまったことです。その時は自信があって、すぐ「これは偽物です」と言ってしまったのですが、物事はパンダのように、白黒の二色に色分けできるわけではない。何事ももっと広く、柔軟に考えた上で判断するべきです。二つ目は持ち主への先入観を持って判断してしまったこと。あとで高名なコレクターの家で見たときは、素直に作品に向き合えたのですが、最初の時は依頼人への見くびった思いが先に立ち、良い物も悪く見えてしまったのでしょう。若気の至りで恥ずかしい話です。

現在の小林教授

人を見かけで判断しないように

物の良し悪しは安易に即断しない、人は見かけで判断してはならない。学生諸君には人と人の出会いを大切にして物や人の中身をしっかりと見るよう心がけてほしいと思います。

（取材・構成　文殷正）

PROFILE

一九六八年東京大学大学院人文科学研究科美術史専攻修士課程修了。現在、本学文学部哲学科教授。

読書

ソラリス

迷宮の世界の中へ

スタニスワフ・レムというSF作家は、日本でも数十年前から幾つかの作品が出版されてきた人物である。本書はその作品群の中でもとりわけ高名な一冊として知られている。

惑星ソラリスとは謎が謎を呼ぶ天体だ。そこに起こる現象は全く計り知れず、それ自体が「知的生命体」なのだとも考えられている。本書は一般に、その未知なる惑星と人間の接触を描いた作品と読まれる。しかし映画化された際には、恋愛物として描かれもした。その両者の解釈は決して間違いではない。というのも、事実、これは様々な切り口を備えた作品なのだ。

読み手の印象が多様に異なっているのは、そのテーマの多さに起因するものだろう。文章の端々に込められたテーマは複雑に絡み合い、追えば追うほど、未知の惑星のごとく謎を生産し続ける。作者は本書の中で惑星ソラリスについて「一つの刺激に対して二度と同じ反応を得ることができなかった」と記している。これはまさしく本書自体に該当する現象にほかならない。頁をめくるその度に新たな発見があり、読者のその時々の興味・関心によって印象を変えてしまう万華鏡のような性質を持っているためである。

未知の惑星を考えるにつけ、既知の惑星、地球が引き合いに出されるだろう。人間の科学が解き明かしてきた地球上の自然現象。そこに何らかの意味を見出すのは難しい。それらはただ生じているに過ぎないからだ。惑星ソラリスにしても、単に起きることが起きているだけなのかもしれない。だが、裏を返せば、それは地球が生命体である可能性を語るものではないのだろうか――。これも、多様な解釈から生まれた空想の一つである。（菅）

（スタニスワフ・レム著　沼野充義訳　国書刊行会　税抜二四〇〇円　二〇〇四年刊）

あなたの好きな鎌倉を

インタビュー

古都鎌倉の達人、渡邉さん

これまで紹介したように、鎌倉には多くの文化遺産がある。そこで、鎌倉市市民経済部観光課の渡邉浩平さんに、その魅力について伺った。

渡邉さんは「長い歴史が鎌倉の最大の魅力」と話す。「鎌倉の街全体を通して、古い歴史に触れてほしいです。今、鎌倉には『武家の古都・鎌倉』をコンセプトに、世界遺産に登録しようという動きもあります。武家の作った街は、日本で鎌倉と江戸の二つしかなくて、更に往時の面影を残しているのは鎌倉しかありません。街の雰囲気を感じ取ってもらえればいいな、と思います」。

今年は大河ドラマ『義経』の影響で、鎌倉市への問い合わせも増えているそうだ。「『義経と静史跡ガイドブック』というものを、鎌倉市で五万部作ったんですが、大半はなくなりましたね。また『義経』の効果か、若者を街で見かけるようになりました」。

これまでは、小中学生や中高年層が観光客の中心で、若者も訪れるものの海が目的の者が多かったという。渡邉さんは大学生をはじめとする若者に対して、「静かなお寺で法話を聞いたり、座禅を組んだりしてみてはどうでしょうか。涼しい気分になれますし、お寺は日本建築で風通しがいいので体も涼しくなりますよ。写経なども、最近は人気がありますね」と勧めてくれた。

鎌倉は東京から決して遠くはない。本学生も容易に足を運ぶことができるだろう。事実、鎌倉を訪れる人の大多数が日帰り客のようだ。だが渡邉さんは、「是非泊まりがけで観光に来てほしい」という。「泊まりがけだといろんなところが見られます。鎌倉は広く、鶴岡八幡宮のある中心地区のほかに、円覚寺のある北鎌倉地区、大仏のある長谷地区など名所が点在しています。一日では、とても回りきれませんよ」。また、駐車場に車を停め、そこから江ノ電やバスで市中心部へ入る「パーク&ライド」を実施しているそうだ（七、八月は実施していないが、九月より再開予定）。

最後に渡邉さんは、鎌倉の楽しみ方のアドバイスをくれた。「それぞれが自分の好きな場所を見つけてほしいですね。そして、いい所をみんなに話してください。そんな風に、『ガイドブックにない鎌倉』を楽しんでもらいたいです」。

（植木太）

企画　北岡　恵子

構成　河野　雅子

　　　柳川　香里

レイアウト

　　　原　泰一郎

　　　新原　大輔

取材　植木　　太

　　　小倉　正也

　　　佐藤　貴裕

　　　中谷　美穂

　　　山崎　晃志

　　　山田　絵美

本格の和を味わう

懐石料理

見た目もおいしい懐石料理。一度ご堪能あれ。

鎌倉の穏やかな町並みを見て回っていたらお腹が空いた。こんな時にはせっかくだから、豪勢に懐石料理を食べてはいかがだろう。本来ならば、なかなか値の張る懐石料理。しかし、学生でも気軽に懐石が食べられる店、日文（ひふみ）は、とにかく安い、美味いにこだわっている。

カフェバーだった内装をそのまま使い、モダンな印象を与える店内。琴の音が流れ、和洋折衷の雰囲気が漂う。そんなお洒落なこの店にはミニ懐石（一九九五円）というランチメニューがあり、その驚くべき安さで多くの女性の支持を得ている。

「とにかく目新しいものを」と総料理長も言うように、先附では「アロエのカクテルソース」が出るなど、確かにその内容は斬新だ。

前菜・焚合せも味がある。季節を感じる色とりどりの食材を使っていて、目でも懐石を味わえる。前菜で「糸瓜のオランダ煮」などの小料理を楽しんだ後は焚合せ。そしてその後のメインは、「車海老の天婦羅」など四品目から好きなものを選ぶことができる。取材時に食べた「胡桃豆腐の揚げ出し」は、胡桃のほのかな香りが食欲をそそり、豆腐の甘さが口いっぱいに広がる逸品。最後に甘味も用意されており、本格的に楽しめるのだ。

しかも、献立の内容は毎月変わる。つまり、ここ一軒で飽きることなく、季節に合わせた料理が楽しめるのだ。また、ご飯がおかわり自由というのも嬉しい。このご飯にちょっとした趣向が凝らされており、この日は「ジャコと新生姜の炊き込みご飯」だった。

「格式ばった店にはしたくない」という思いからか、誰もが安らげる空間がそこにはある。鎌倉で懐石料理を食べるならば、是非とも訪れてほしい。

（山崎晃志）

☎ 0467―22―8685

定休日…月曜日

営業時間…11時半～15時　17時～21時半

優雅にお散歩

人力車

鎌倉駅を出て鶴岡八幡宮のほうへ歩いていくと、あちこちで変わった乗り物を見かける。大きな車輪に、幌(ほろ)の付いた座席。それを人が走って引っ張っているのだ。

この不思議な乗り物は、鎌倉の町をめぐる人力車である。一台およそ二百万円する高級品で、走る伝統工芸品とも言われている。

鶴岡八幡宮前で人力車に乗り込む。案内してくれた車夫さんは、雨の日でも営業している人力車屋**えびす屋**の喜古（きこ）由則さんだ。人の重みをものともせず、すいすいと走りながら喜古さんは言う。

「人力車を引く僕らとしては、お客さんの乗っている車のほうが引きやすいんです。というのも実は、人の重みがあったほうが、車体が安定するんですよ」。

人が引いているのだから、さぞかし揺れるだろうと思う方も多いはず。だが乗った感じは意外や意外、高級外車に負けず劣らず心地良い。ゆったりと流れていく景色とあいまって、一昔前の紳士淑女になった気分になる。

「普通に来ただけじゃ分からないような、普段着の鎌倉をお教えします」。

人力車は民家と民家の間を抜けて、裏道へと入っていく。大正モダンな喫茶店や、かの有名な時代小説「鞍馬天狗」の作者、大佛次郎の住居などを巡ったのち、喜古さんが連れてきてくれたのは、紫陽花の咲き乱れる細い路地。

「今の季節だったら、ここがいいと思って」。寺院をいくつか巡り、鶴岡八幡宮に戻ってくるというモデルコースもある。しかしそれ以外にも、季節やお客さんの年代、雰囲気によって、プラスアルファができるのが人力車の魅力だ。

「人力車に乗られるお客さんは皆な、遊び心のある方ばかりです。僕はそんなお客さんたちに『解説』するんじゃなくて、一緒に『観光』したいんですよ」。

その後、女性客におすすめという寿福寺までひと走り。愛の寺とも呼ばれるここは、北条政子が源頼朝のために作った寺だそうだ。そして再び、鶴岡八幡宮に戻ってきた。

ぱっと見は、とっつきにくい人力車。しかし色々考える前に、とりあえず乗ってみてほしい。「考えるな、感じるんだ！」が人力車の合言葉なのだ。

（河野雅子）

☎ 0467―22―4455

出発進行！　鶴岡八幡宮前から行って参ります

木々に囲まれ静かに佇む

頼朝の墓

偉人の墓というと、どんなものを思い浮かべるだろうか。きっと見る者にその業績を再確認させるような、立派なものを想像するはずだ。それも、小学生でも知っている『イイクニ（一一九二）つくろう鎌倉幕府』を開いた源頼朝の墓であればなおさらだろう。だが予想に反して、歴史に名を残した将軍は紫陽花の咲き乱れる小路の先、急な階段を上った所にひっそりと眠っている。

征夷大将軍に就いてわずか七年で没した頼朝の死因は多説ある。有力なものとしては落馬によるとされるもの。相模川の橋の落成式の際に落馬し、二十七日後に死亡という経緯を見る限り、妥当な線であろう。

その他糖尿病説、暗殺説、はたまた侍女の部屋に忍び込んで誤って切りつけられたという夜這い説まである。というのも、鎌倉幕府が公的に編纂したと言われている『吾妻鏡』に頼朝の死についての記述がないためだ。

その頼朝の墓は多少探しにくい所にあるが、道案内の看板を活用すると案外迷わずに行くことができる。墓のふもとには、現在は戸の閉められた白旗神社が建っていた。周囲は樹木が生い茂り、まるで墓を守っているかのようだ。墓自体は約二メートルの五層の石塔で規模も大きくない。だがこれは、鎌倉の質素倹約の精神が表れているのだろう。栄華を極めた頼朝の墓としてはもの寂しいという印象を受けるが、実際は毎年多くの観光客が訪れるスポットだ。鎌倉探索の合間にでも寄ってみてはいかがだろうか。

（山田絵美）

苔むした五重塔の墓

静寂から広がる美の世界

近代美術館

神奈川県立近代美術館は昭和二十六年、日本初の公立近代美術館として鶴岡八幡宮境内に開館した。坂倉準三氏設計の近代建築は、境内で他とは異なる歴史の重みを物語っている。

館内の構造はシンプルかつユニークだ。多くの美術館に見られる美術図書室などはなく、ほぼ全てが展示のための空間である。さらに、ある展示室はガラス壁で囲われているため、平家池を見ながら展示品を鑑賞することも可能。ただし、夕方ごろになるとブラインドが下ろされるので、注意が必要だ。

平家池をじっくり見たい人や一息つきたい人には喫茶室「ル・ミュゼ」がおすすめ。落ち着いた雰囲気のある室内で、優雅なティータイムを楽しめる。

なお九月四日まで、鎌倉館では「今日の作家X　西村盛雄・松本陽子展―思考の器／拡散する光」を開催している。西村氏は蓮の葉をモチーフにした作品を、松本氏は未発表最新作〈緑色の絵画〉シリーズまでの代表的作品を展示している。それぞれの展示に加え、ふたりの作品が共有する空間があることにも注目だ。ぜひ作品から何かを感じ取ってほしい。

（中谷美穂）

開館時間…9時半～17時（入館は16時半まで）

休館日…7月18日を除く月曜日・7月19日

入場料…学生650円

☎ 0467―22―5000

近代建築が映える風景

最後のお楽しみ

おみやげ

旅の最後を締めくくるのは、なんといっても土産選び。気のきいたセレクトで、鎌倉の楽しかった思い出をおすそ分けしよう。

鎌倉にも他の観光地と同様に、名産品が数多くある。まず菓子で挙げられるのは、言わずもがなの名物「鳩サブレー」だろう。バターの風味豊かな香ばしい食べ口は、明治三〇年以来多くの人に愛されている。ただ、定番過ぎて少々面白みに欠けるかもしれない。

高級志向でいくなら、伝統工芸品にも指定されている「鎌倉彫」がお勧め。これは、木製の器に模様を彫刻し、漆を塗り重ねたもの。漆の光沢が繊細であると同時に、極めて丈夫で実用にも耐えうる優れものだ。

高級品もいいけれど、なるべく安めに抑えたい人も多いのではないだろうか。そこで役立つのが土産界の新定番、ご当地キティである。鎌倉で購入できるものは、六種類ほど存在する。中でも、必ず押さえておきたいのは「義経キティ」と「弁慶キティ」だろう（写真前方）。両者お馴染みの服装を着こなすキティ。どんなときも付いているトレードマークの赤いリボンがミスマッチで可愛らしい。女の子へのお土産で悩んでしまったら、最後にすがりつける頼もしい味方だ。

他にも、今が旬の美しい紫陽花をお土産にするのはいかがだろう。といっても、生花のことではない。色とりどりの金平糖でかたどった、見てうれしい食べて美味しい紫陽花だ（写真後方）。多くの和菓子屋で約三〇〇円で購入できるので、お財布にもやさしい。

いくら策がなくとも「鎌倉に行ってきました」なんて菓子箱を安易に選ぶのは、もう終わりにしよう。

（柳川香里）

小さな英雄をプレゼント

【モデルコース】

- JR鎌倉駅→小町通り（食べ歩き）→鶴岡八幡宮→　人力車乗車→寿福寺→鶴岡八幡宮前下車→　近代美術館→頼朝の墓→懐石料理「日文」→土産物色（若宮大路）→JR鎌倉駅

（所要時間：約一日）

ちょっと寄り道

食べ歩き

店先においしそうなものが並んでいると、ついつい食べたくなってしまうのが人間の心理というもの。ここでは鎌倉の中でも数多くの店が連なる、小町通りと若宮大路を取り上げる。

鎌倉駅下車後、鶴岡八幡宮に向かって小町通りを歩くこと約三分。向かって右側に見えるお店は、若宮大路に本店があるサツマイモ菓子専門店の**いも吉館小町通り店**だ。紫いもソフトクリーム（二九五円）は、行列ができるほどの人気商品。サツマイモの風味をそのまま味わうことができ、鎌倉見物の際は是非立ち寄りたい。

次の店は、はちみつ直売店の**杉養蜂園鎌倉店**。この店では、はちみつドリンク（二一〇円）が販売されている。はちみつドリンクには、ゆず、アセロラなど、合計五種類が用意されており、いろいろな味を楽しむことができる。また、お土産にはちみつを買っていく客も多い。

小町通りも終盤にさしかかると、豚まんじゅう専門舗、**鎌倉点心**が見えてくる。名物の鶉の卵が丸ごと入っている大きな、豚まん（三九五円）には誰もが驚く。その他の豚まんじゅうの種類も豊富なので、食べ比べてみるのもいいだろう。

八幡宮をお参り後、そのまま石段を下ると、若宮大路に入ってくる。店舗数では小町通りに劣るが、ここにも数多くの名店が立ち並ぶ。最後に向かった店は、和菓子と甘味処の**ともや本店**。店の外で酒まんじゅう（一〇〇円）が蒸されているので、客も自然に足を止めてしまう。あんこがぎっしり詰まった中身には、誰もが大満足。喫茶室もあるので、休憩にはもってこいだ。

今回紹介した店以外にも、鎌倉には数えきれないほどの由緒ある店がある。実際に食べ歩いてみると、あなただけの自慢の一品に出会えるだろう。

（佐藤貴裕）

これが目印

☎ いも吉館小町通り店　0467―25―6220

☎ 杉養蜂園鎌倉店　0467―24―4207

☎ 鎌倉点心　0467―61―1601

☎ ともや本店　0467―25―4006

源氏にまつわる見所満載

鶴岡八幡宮

源氏所縁の場所として広く知られている鶴岡八幡宮。鎌倉へ行ったことのある人なら、一度は訪れたことがあるだろう。

鶴岡八幡宮は一〇六三年源頼義が由比ヶ浜に八幡宮を祀ったのが始まりだ。その後、一一八〇年に頼朝によって鎌倉に移された。現在の建物は当時の物ではなく江戸時代に造営された物で、国の重要文化財に指定されている。その外観は山の緑に映えて美しい。

若宮大路から鳥居をくぐり、石畳の道を進んでいくと、まず目に入るのが舞殿だ。この舞殿は義経の恋人であった静が、頼朝の前で舞を踊らされたことで知られている。その際、静は「よしの山　みねの白雪ふみわけて　いりにしひとの　あとぞ恋しき」と雪深い吉野山での義経との離別を悲しんだ歌を詠み、舞を披露したという。

舞殿よりさらに進むと立派な石造りの階段が現れる。その美しさの一方で、そこは鎌倉三代将軍源実朝が、別当公暁によって斬殺された場所でもある。二十八歳という若さで殺害された実朝には子がおらず、将軍源家はわずか三代で途絶えてしまった。また、階段の脇にはその際に別当公暁が隠れていたとも伝えられる樹齢千年の大銀杏があり、その雄大な姿とともに八百年もの長い歴史を物語っている。

このように様々な歴史に彩られた鶴岡八幡宮。ここでは一年を通して多くの行事が行われている。中でも九月に行われる流鏑馬（やぶさめ）神事は海外から訪れる観光客も多い。鎌倉時代の装束を身に纏い、駆け抜ける馬上から的を射抜く。その姿は鎌倉時代の武士を彷彿とさせる。

歴史の深さはもちろん、その美しい景観は見るものの心を惹きつける。ここはまさに古都鎌倉を象徴する場所だ。

（新原大輔）

両脇を木々に囲まれた見事な石段

記者の眼

増えるシャッター通り

取材の関係で鎌倉を訪れたとき、最初に驚いたのは平日にも関わらず観光客があふれていたことだ。修学旅行生、年配の団体、その他さまざまな層が「古都」鎌倉巡りを楽しんでいた。駅から鶴岡八幡宮までの道のりには土産物屋がずらりと軒を連ね、どこも盛況に思われた。しかし、賑やかな通りをほんの少し過ぎると、状況が一変する。そこではかなりの店がシャッターを下ろし、人通りが少なく活気がない。休日ともなれば営業する店も多いのだろう。だが、こんなに観光客が来るのに店を閉めているとはどうしたことだろう。

観光が最大の収入源とされる沖縄やここ鎌倉の商店街が、一部ではあるが停滞している。そしてこのような現象は、下町や横浜などの都市、そして特に地方でも起こっているのだ。最大の要因は、店に個性がなく魅力的でないという点が挙げられる。商品も他店と変わりなく、陳列方法に芸がない。店全体が暗く入りにくく、品揃えが寂しく購買意欲がそそられない。私はこのような印象を受けた。これでは観光客の足が遠のくのも当然であろう。その結果、経営が奮わず、シャッターを下ろすことになってしまう。

商店街を再生させようと小学生の絵を飾ったり、宅配のような新たなサービスを試行するなど、苦肉の策を取っている所は多い。しかし、それで観光客の心を再び取り戻せるのだろうか。本当に客を取り戻したいならば、観光客の視点に立った魅力的な商店街作りを展開していく必要がある。そのためには個別の努力ではなく、街全体での協力が不可欠だ。

商店街に入ってシャッターの下りた店ばかりだと魅力が半減する。そこで、例えば空き店舗を何かに活用すると、見た目もよく観光客の興味も引ける。さらに商店街全体で資金を出し合い駐車場のスペースを購入すると、便利になり利用しやすい。考え出せばきりがないのだ。現状に甘んじるのではなく、積極的に変える努力をすれば現状が打破できるかもしれない。

日本は世界有数の観光大国である。そして今ジャポニスムが注目されており、日本を知ってもらう絶好の機会だ。また、国内でも伝統に改めて目を向ける機会もでてきた。そんな中、土産通りがシャッター通りでは寂しい。そうならないためにも、商店街全体で工夫を凝らした街作りをしてほしい。

（政治学科2年　山田絵美）

使い捨てにされる価値

今年の大河ドラマ『義経』は、近年の中では出色の人気を誇り、話題となっている。老若男女問わず、広い層から支持されているようだ。いわゆる「話題作り」のためだろうか、最近は題材やキャストに、視聴者層を広げるための要素を取り入れようとする動きが見られる。今回はそれが功を奏したのだろう。『義経』はドラマを中心に小説やゲーム、果ては旅行プランまで取り込んだ大きなブームとなっている。

こうしたNHKでのドラマ放映に端を発するブームとしては、『冬のソナタ』から始まった「韓流ブーム」が記憶に新しい。また同様に昨年大きな盛り上がりを見せた「お笑いブーム」も、テレビや雑誌などのマスコミ全体で盛り上げる形でブームへと発展していった。しかし、どちらも今年に入ってからは失速しつつあるように見える。ブームは頂点を越えてしまえば、あっという間に終焉を迎えてしまうのだ。

「日本人は飽きっぽい」という言葉をよく耳にする。どうやらファッションや娯楽の流行り廃りが激しいのは、日本人の国民性によるものらしい。その証拠に、日本のひと昔前のドラマの再放送などを見てみると、海外のものに比べて出演者の服装や髪型が今と大きく異なっていることに気付く。

どんなブームも一種のお祭り騒ぎに似た盛り上がりの中で、本当の価値観を失ってしまうことがままある。そのブームの対象となる服装や音楽など、そのものの価値が評価されるのではなく、「売れているから」「みんな持っているから」というだけの理由でブームに参加する人々があらわれ、実体の無いハリボテのような評価がなされてしまう。やがて祭りの熱気が冷めてしまえば、そこにはまともな評価をされずにブームの渦中で祭り上げられてしまった商品の、売れ残りの山だけが残るのだ。

「祇園精舎の鐘の声　諸行無常の響きあり　沙羅双樹の花の色　盛者必衰の理をあらわす」とは、『平家物語』の平家の盛衰になぞらえた有名な冒頭だ。『平家物語』に描かれる盛衰はひとつの「美」である。しかし、現代のブームはどうだろうか。祭りの後には打ち捨てられたゴミの山しか残らない。そうした安易な使い捨てが頻繁に繰り返されているのだ。現代には、一時的な盛り上がりにとらわれない価値観が必要なのかもしれない。

（哲学科1年　小倉正也）

満福寺

源義経――牛若丸と呼ばれた幼少の頃から死に至るまで、その人生は数々の伝説に彩られている。京都五条大橋での武蔵坊弁慶との戦い、日本で始めての奇襲戦法といわれる一の谷の戦い。また、史実では平泉の地で藤原泰衡に裏切られ没したとされるが、密かに蝦夷地に渡り、アイヌの王となったという逸話まである。史実と思えないものも少なくないが、後世の人々に愛されてきた証拠だろう。その義経を語る上で、避けて通れぬエピソードが鎌倉満福寺にある。

まずは、満福寺の起源から紹介しよう。この寺の起こりは奈良時代まで遡る。天平十六年（七四四年）関東に病気が流行した。これに対し、聖武天皇は僧・行基にこれを平癒するよう命じる。行基は道すがら鎌倉へ訪れた折、前方に広がる海原と後方の山並みが美しいこの場所で祈りをささげた。すると、不思議なことに病気が治まったという。そのことから行基は仏の功徳を称え、満福寺を建立したと伝えられている。

しかし、万人を救った仏の功徳もひとりの英雄には施されなかった。義経である。一の谷の戦い、屋島の戦い、そして壇ノ浦の戦いと、ことごとく平家の軍を破った義経は、兄である頼朝に面会するため京から鎌倉へ向かっていた。しかし、義経に不信感を抱く頼朝に鎌倉入りを拒まれてしまう。さらに頼朝は、許可なく官位を受けた事を咎め、東国への帰還禁止と領地を没収することを命じる書状を送ったのだ。頼朝の怒りを解くために義経は、満福寺に逗留し、元暦二年（一一八五年）五月二十四日、許しを請う書状をしたためる。それを頼朝の信望の厚かった公文所別当である大江広元に差し出し申し開きをするが、ついに許されることはなかった。この書状を腰越状といい、草案（武蔵坊弁慶著といわれている）が満福寺に伝えられている。

そのような歴史があることから、満福寺には義経・弁慶に関連したものが多く残っている。寺の境内には前述の腰越状の草案を始め、義経の生涯が三十二面に渡る襖絵に描かれており、実に見事だ。境外には義経公慰霊碑や、手を洗ったといわれる井戸があり、八百年以上前に生きた義経を身近に感じることができる。また、弁慶が腰越状の草案を書く折に水を汲んだとされる硯の池、弁慶の腰掛石、手玉石というものもあり興味は尽きない。

義経の運命を分かった場所、満福寺。義経の足跡を辿りたければ、いざ鎌倉！

（原泰一郎）

地蔵の左にあるのが弁慶の手玉石

CAMPUS GUIDE

●輔仁会雑誌編集委員会

「第35回輔仁会雑誌賞」

日時：9月16日までに応募

応募先：黎明会館318号室

内容：今年も、輔仁会雑誌賞作品募集の時期となりました。学習院内の文筆活動の可能性を高めるための文芸賞です。

●美術部

「合同展（名称未定）」

日時：8月31日～9月2日

場所：文京区シビックホール　1Fホワイエ

料金：無料

内容：上智、成城、法政、武蔵の各大学との合同展です。

●国劇部

「平成17年度学習院歌舞伎　恋愛脚大和往来『封印切』」

日時：8月27日

場所：豊島公会堂

料金：1000円

内容：今年の演目は世話物で、話もわかりやすいので、楽しんで頂けると思います。

●お笑いサークル

「第1回お笑い実力テスト」

日時：7月31日までに応募

応募先：03021247@gakushuin.ac.jp

内容：最高得点者には豪華なプレゼント！　問題は西門掲示板、黎明内の掲示板に掲載します。

●書道部

「オール学習院書展」

日時：7月21日～23日

場所：百周年記念会館

料金：無料

内容：著名な先生方をはじめとする様々な方の作品も多数展示します。

●放送研究部

「サマーモニター会」

日時：8月28日

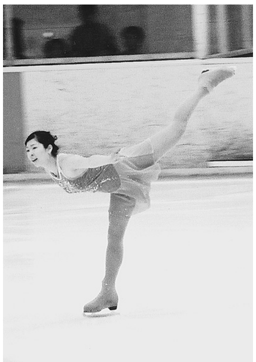
場所：中央教室

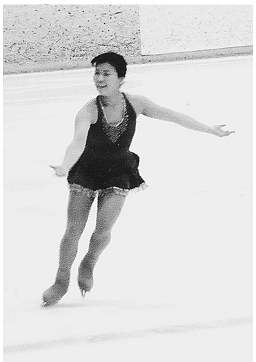
料金：無料

内容：人種のサラダボウルがお送りするサマーモニター会！

氷上に咲き誇る

フィギュアスケート部


美しいスパイラルで魅せる中嶋選手


スピードが武器の恩田主将

5月28日、フリースケーティング選手権大会が東大和スケートリンクで行われた。本学はジュニア女子団体Bクラスで優勝の栄冠を手にした。個人では恩田佳枝主将（心4・かえ）が4位、中嶋清香選手（仏4・さやか）が5位、糸井裕子選手（済4）が8位と入賞を果たす。またBクラス男子でも、中野智裕選手（法3）が3位と大健闘をみせた。

テクニカルメリット14・3点、プレゼンテーション14・9点の中嶋選手は、ゆるやかな滑り出しをみせる。曲は『眠れる森の美女』の序奏。バレエ経験を生かしたスパイラルでジャッジを惹きつける。しかしアクセルジャンプの後、ループでまさかの転倒。それに引きずられるように、2回目のアクセルジャンプを失敗してしまう。だがその後は持ち直し、キャメルスピンからシットスピン、そしてバックスクラッチで演技を終えた。中嶋選手は「アクセルジャンプに気を取られて、基本のジャンプをおろそかにしてしまいました」と振り返った。

恩田主将の演目は『シカゴ』のメインテーマ。豊かな表情と、ところどころでみせる個性的なポーズで存分にアピールし、観客の目を奪う。さらにはアクセルジャンプも決め、絶好調を維持した。ところが2回目のアクセルジャンプでは緊張のためか、着地の際に両足を着いてしまう。しかし続く足替えスピンを見事成功させると、その後もスピードを生かした滑りをみせ、フィニッシュ。テクニカルメリットが15・2点、プレゼンテーションが15・9点と高得点をうち出した。

だが今回の演技を70点だという恩田主将。「常に自分の演技に満足はしていません。本番には強い方なのに失敗してしまったのが悔しいです」と厳しく評した。

糸井選手はテクニカルメリット13・5点、プレゼンテーション13・8点を出した。糸井選手の高いジャンプは定評を得ている。ゆったりとした曲調のなか、演技開始直後にアクセルジャンプを披露し、観客からも歓声が上がっていた。

最後に恩田主将は次なる目標を掲げた。「秋の関東大会だけでなく冬の全日本インカレでの総合優勝も目指します。部内で切磋琢磨して華やかなだけではなく、実力の伴った部にしていきたいです」。

金剛石のようにお互いを磨き上げる彼女たち。向上心を失うことは決してない。秋にはきっと今よりも眩いほどに輝いているだろう。（長谷川さよ）

卓球 男子

追随を許さず4部優勝

立正大を一蹴する


部員の期待を一身に背負い、サーブの態勢に入る斎藤選手

昨秋、惜しくもリーグ戦優勝を逃した本学。その雪辱を果たす機会がやってきた。5月28日、29日、千葉大学体育館にて行われた卓球男子4部リーグBブロック。本学は圧倒的な強さをみせ、5勝0敗という堂々たる成績で優勝した。

立正大との最終戦。この試合に勝った方が優勝という大一番だ。この押し潰されそうな緊張感のなかでも、本学選手たちは自らの力を発揮した。

第1試合、臼田和哉選手（済1）が立正大のエースにも臆することなく、素晴らしい活躍をみせた。3球目攻撃によるドライブを次々と決め、第1セットを勝ち取る。しかし、続くセットは相手の気迫に押されて防戦一方。あっという間に2セットを連取され、窮地に立たされた。

だが、このまま終わる臼田選手ではない。気合の入ったプレーで第4セットを接戦の末ものにする。そして、圧巻だったのは最終セット。序盤から積極的に攻め、一気に7―0とする。その後も集中力を切らさず試合を終えた。

フルセットでの勝利に沸く本学。続く早川勇主将（済4）もこの勢いに乗った。出だしからサーブで相手のミスを誘い、終始自らのペースで試合を進める。

第1セットを危なげなく先取すると、第2セットも持ち味の台上プレーで相手を翻弄。戦局は有利に展開していく。相手も食い下がり終盤同点とされるが、早川選手は慌てない。冷静なプレーを続け、最後は豪快なスマッシュによって2セット目も奪った。

そうして迎えた第3セットは、早川主将の独壇場となった。相手の動きをよく見た無駄のないプレー。さらには、何本ものサービスエースで点差を広げる。決して無理をすることなく、試合巧者ぶりをみせつけ勝利。本学が王手をかけた。

そして、第3試合のダブルスが命運を決めた。本学のペアは早川主将と斎藤陽太選手（済3）。両選手とも懸命なプレーをみせる。第1セット、序盤からドライブの打ち合いとなる。激しい攻防が続くが、試合は相手がリードしたまま展開。先にマッチポイントを握られてしまう。それでも本学は諦めない。粘りに粘り、最後は斎藤選手が強烈なドライブを放ち、逆転でこのセットをもぎ取った。

さらに劣勢に立たされた第2セットも、本学は焦らなかった。リードを許すものの、自分たちのプレースタイルを貫き通す。すると、次第に相手にミスが目立ち始め、点差が縮まっていく。最終的にはこのセットも逆転で制した。

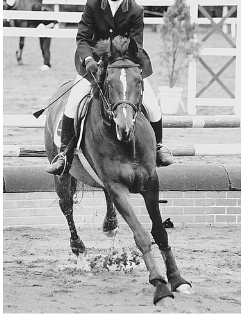
優勝のかかった第3セット。両選手にプレッシャーが重くのしかかる。だが、ベンチからの声が2人を後押しした。部員全員が今まで以上の声援を送る。それに応えるように両選手は得点を重ねた。早川主将がつなぎ、斎藤選手が鋭いドライブを相手コートに打ち込む。最後まで攻め続け、ついに優勝という栄光に辿り着いた。同時に、喜びを爆発させたベンチが2人に駆け寄った。チームが一丸となって掴んだ優勝だった。

試合後に早川主将は「チームみんなの応援が力になった。チームが団結したから優勝できたのだと思います」とすべての選手をねぎらった。また「喜ぶのは今日だけにしよう」と気を引き締めた。

悲願の優勝を果たした本学。だが、彼らはここで立ち止まらない。現状に安住することなく、まだまだ上を目指している。本学はこれからも進み続けていくだろう。（嶋先伸人）

争覇戦、2部制す

馬術部


野村選手、皇桜の疾駆

馬が駆け巡る音が聞こえる。6月11日、12日の2日間、馬事公苑で第75回関東学生争覇戦、障碍飛越競技（しょうがいひえつ）が行われた。

これは12個の障害を越えていく競技。減点方式で、同点時はタイムで競う。4人の団体戦で勝ち点が同数の場合、総減点で争う。

第1回戦、相手は昨年優勝した東海大。初戦で競り負け、迎えた第2試合で野村友紀選手（哲4）・皇桜は次々と華麗にバーを飛び越え一気に駆け抜ける。だが、約8秒差で2戦目も東海大の前に屈する。

第3試合、国本以紗主将（政4・いさ）・翔桜の登場。軽快な走りで障害をすべてクリアし、本学に軍配が上がる。最終戦、先攻の東海大は2落の80・09秒で通過。勝敗の行方は山口朗子選手（哲3）・和桜に託された。駆け出しの2つ目の障害を失敗。リズムを整えるも9つ目も落としてしまう。もう後がない。しかし、そんな周りの不安をよそに残りの障害を鮮やかに決めていく。あと3つ、2つ、1つ――。64・82秒。2―2、総減点16―247で見事逆転勝利を収めた。

第1回戦の勝利の波に乗り、準決勝では法政大をストレートで下した。そして自信を持って迎えた決勝戦。相手は本学と互角の慶応大だ。同大は3反抗で失権し、本学が初戦を制す。しかし続く2、3戦目は本学のミスで慶応大の手に渡った。敗北の文字が頭をよぎる。そんな状況下でも山口選手は落ち着きをみせた。

最終戦先攻、山口選手・翔桜。何も考えず、馬の邪魔をしないよう、ただ息を合わせるだけ。完璧な飛越を披露した。最終走行者は昨年、関東学生障碍飛越競技で2位を収めた相手だ。緊張感が漂う。だが慶応大はプレッシャー負けしたのか1落。その時、本学の張り詰めた空気が瞬時に解けた。2―2、総減点16―300。本学はまたも大逆転。2部優勝を手にした。

試合後、国本主将は「よい走行で満点を、との思いが2部優勝につながりました。他大は経験者が多いのですが、練習すれば大学から始めた人でも勝てる、と後輩に示せてよかったです」と嬉しそうに語った。

今試合で山口選手は2部のMVPに輝いた。馬術部はさらなる挑戦へ向かい駆け上がる。（平峯さとみ）

意地の残留

ホッケー部女子


この日2点を決めた行田主将（左）

6月19日、1部残留をかけた春季リーグの入れ替え戦が、明治大学八幡山グラウンドで行われた。相手は東海大。「絶対に勝つしかない」。この試合への意気込みは、並々ならぬものであった。

前半、本学はまず先制点を奪うため、作戦通り右サイドから積極的に攻める。ペナルティーコーナーを得るなどチャンスを作るが、なかなか決定打が生まれない。逆に東海大から押される我慢の時間に入り、何度かピンチを招いた。だが気迫のディフェンスで何とか凌ぐ。先制点を手にするための、一進一退のせめぎあいが続いた。

すると前半25分、3度目のペナルティーコーナーで行田千里主将（営4）が貴重な先制点を挙げた。この得点で本学が勢いづく。前半終了間際の35分にはまたしても行田主将がシュートを決めた。2―0。順調に得点を重ね、試合を優勢に進める。

続く後半も立ち上がりから本学のペース。徹底した右サイド攻撃で追加点を狙い、守備では東海大の好機の芽を摘んでいく。後半5分、根上慧子選手（日2）が決定的な3点目を奪った。グラウンドに漂う勝利の予感。しかしその直後、一矢を報いようとする東海大の抵抗にキーパーが抜かれてしまう。だが的確なカバーリングで相手を抑えきり、そのまま試合終了。選手や観客から大きな歓声があがった。

この一戦は攻守ともに作戦が機能し、ボールをほぼ支配し続けた完勝試合だった。だが今季を通して見ると、1勝もできずに降格の危機に立たされていた。行田主将は「来季からは、入れ替え戦に来なくて済むようにしたい。必ず勝ちます」と抱負を語った。

一方、男子も1部昇格が決まり、来季は男女揃っての1部リーグ。1部の強豪を相手にこれからどんな試合を見せてくれるか、期待が高まる。（今村隆介）

Replay

射撃部主将

斉藤　望さん（法4）

心の葛藤を撃つ

5キロから6キロもの銃を構え、一点の的を狙い定めて引き金を引く。ミスをしてはならないという緊張感やその日の健康状態、心の迷いなど、一瞬の気持ちの揺れが結果に響く。射撃は精神スポーツなのだ。

斉藤主将は大学に入って間もなく、友人の勧めで射撃に魅かれ、銃を撃つという非日常的な世界に入っていった。そしてその年の甲南戦での2位入賞が彼の射撃人生を変えた。「それまでは全く成績が振るわなかったのですが、突然いいスコアを撃って。励みになりました」。その後は、射撃のコツがつかめてきたこともあり、スコアが大きく落ち込むことはなくなったという。

しかし最初は右上がりだったスコアも2年の春に伸び悩み、次第に射撃への熱は冷めていった。しかし射撃部に装薬銃使用の話が持ち上がったとき、一気に目の前が開けた。それまで空気銃しか知らなかった斉藤主将にとって装薬銃は未知の世界だった。新しい可能性が彼の射撃魂を呼び覚ましたのだ。あとは装薬銃を構える日を夢見てひたすら練習に没頭するだけだった。成績はそのうち伸びるだろうと気持ちを切り替えた。その結果、秋の関東大会にはやっとスランプから立ち直った。

その年の10月には念願の装薬銃への進出を果たす。「空気銃に比べ装薬銃は的までの距離が50メートルと、今までの5倍なんです。しかも狙いづらい上に空気銃には無かった反動が付いています。ブレをいかに修正していくかが装薬銃の醍醐味ですね」。

昨年の甲南戦は悔しい思い出として心に残っている。3人一組の団体戦での出来事だ。このままいけば勝つと思われた試合だったが、前日に体調を崩したこともあり、斉藤主将は的を外してしまう。「自分のせいで勝てなかった。もう二度とこういう思いはしたくないです」。

良い結果もそうでない結果も気持ちを成長させる。心の葛藤は誰にも負けない強い心を与えてくれるようだ。（石崎知世子）

◇　◇

今号をもってReplayは終わります。ご愛読いただきありがとうございました。

TOPICS

その他試合結果

【弓道部女子】▼四大戦▽1位▼関東学生弓道選手権大会▽矢坂佳子選手　個人戦6位

【弓道部男子】▼四大戦▽2位

【硬式テニス部女子】▽四大戦▽対武蔵大ダブルス2―0、シングルス5―0▽対成蹊大ダブルス2―0、シングルス1―4

【硬式テニス部男子】▽甲南戦▽6―3

【ソフトテニス部女子】▼関東リーグ▽0勝5敗

【バスケットボール部女子】▼四大戦▽4位

【バスケットボール部男子】▼四大戦▽1位▼関東大学新人戦▽対高崎経済大54―65

【バレーボール部男子】▼四大戦▽2位

【バレーボール部女子】▼四大戦▽2位

【ボーリング同好会】関東学生レギュラーリーグ▽1部6位　2部降格

【ラクロス部男子】▼甲南戦▽勝ち▼四大戦▽同率1位

【陸上部】▼旧三大戦▽1位▼関東インカレ▽35位▼甲南戦▽2位

デスクの片隅

気がつけば3年生になり、気がつけばもう引退しようとしている。何度か投げ出したくなり、何度かごみ箱を蹴飛ばしたが、それでも最後まで続けることができた。途中耐えられず、退部しようと身辺整理をしたことが懐かしい▼上に立つと、自分だけでなく全体を見なくてはならず、忙しさは増した。記事を書くのは個人だが、新聞自体はそうではない。ひとりが仕事をしなければ、当然のごとく紙面に空白ができてしまう。印刷所で、部員の怠慢による白い穴を見つけたときは、思わず胃が痛んだ。「ふざけるな」と思い、それに留まらず声をあげたこともあった▼だが、いざ終りが近づいてくると、なんだかさびしい。仕事の忙しさが無くなることに対して、というよりは、もう部室に用が無くなり、部員と顔を合わさなくなることがさびしいのだ▼ほかの部活と比べれば少し早い引退。決して長くはない時間だったが、温かい部員たちに支えられ、とても充実した日々をおくることができた。心から感謝したい。（鳳）